



社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042) 735-2220
F A X (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

新年のご挨拶

「優しくあれ、逞しくあれ、
新しくあれ」

社会福祉法人つるかわ学園
理事長 廣本 肇

二〇一一年七月、「障害者基本法」が改正され、二〇一二年六月、「障害者自立支援法」を改正し、「障害者総合支援法」とする法律が成立しました。施行は、その一部を除き二〇一三年、今年の四月という事になっております。

昨年は六月に制定されました「障害者虐待防止法」がその十月に施行されました。本年は「障害者差別禁止法」が制定される予定です。

いずれにしても、障害者制度の関係法が整備されつつある主なる目標(目的)は障害者について、国際人権法に基づいた「人権」というものが柱になっているのです。人権といえますのは障害者だけに問いかけるものではなく、人間としての尊厳が基調になっているのですから全ての人間に関わるものなのです。

まずは明けておめでとーございませう。今年の七月、誕生日で私は八十歳になります。石原慎太郎ほどの元気さはないですが結構負けず劣らず元気な方ではないかと思っております。しかし、これを期に、来年

の年賀状をやめます。御中元、御歳暮、出すのも貰うのも廃止、終わりにします。

学園が毎月発行しております「木の芽」十月号に「八十年より先は一年一年」とタイトルにして書きましたが、これからは何が起きてても不思議ではなく、一年ごとが勝負であり圧倒的な勝ち負けは誰も信じない出来事と思ってしまう。

しかし、最後ツ屁的言い回しになります。新年にあやかっつて言いたい放題、いくつか書いて爆弾を投じて見ます。獅子奮迅です。

かつて、私は『処世三原則』ということで、東大教授の社会学者上野千鶴子さんの作品「わたしというミスキャスト幕が降りるまで」という処女句集『黄金郷』の中で、①挑発に乗る②売られたケンカは買つ③乗りかかった船から降りない...という『処世三原則』をそのまま、私の人生の座右の銘としていたと書いた事があります。

まさしく、そうした人生でしたが損ばかりしていて、得をしたことがないのが滑稽であり奇妙な傑作でもあり、本人は森の石松もとき、分かっていて飛び込む阿呆を演じてきたことが再三あるのです。

年老いて、座右の銘は控え目にして、売られたケンカは買わず、挑発には乗らず、常々、冷静にして沈着、微動だにしない信念の管理をしてこそ、わが命題としていた数々の多さに呆れるばかりです。

上に立つ以上、その窮屈さに徹し判断を誤らないように迫られることばかりで緊張に研ぎ澄まされる結果を求められてきました。

あ奴はストレスを背負わない強い奴と言われてきましたが、冗談ではないストレスの塊の渦中にいつもいました。施設長を引退し、その難から逃れたと思いきや、最高経営責任者としての理事長はさらに違った意味での度肝を抜く負荷がかけられてくるのです。つまりお釈迦様の手の平なのです。

心理学で言うビッグマリオン効果である「人は期待をかけられると応えようとする」これがあって、時として思い出しますと「オダテ」に乗るタイプで、結構、私の人生、オダテに乗ってこまど来たのです。

振り返って、我が身も八十なので私の周りにいる人材にビッグマリオン効果というものをかけ、期待と願望を寄せ続けているのです。

『迷子不問』という言葉があります。行くべき道を誤り、道に迷つ者は、正しい道を人に尋ねない。人から教えるを乞わず、私はこう思うと独断に走るのです。そういう人はリストから外さざるを得ないのです。

独断と偏見は舵取りを損なう危険があるのです。もうひとつ、『報道相』これだけはやってほしいのです。いかなる感情、理屈があろうとも、職場の力を一〇〇%發揮させるため、報告は義務であり、連絡は気配りそのものであり相談することにより問題解決の手続き手順となるのです。

これを弁え「あたりまえの事、ぼんやりしないで、ちゃんとやれ」という航空工学の早大黒田勲教授のABCを学習してしまわねえです。

自分たちの問題は自分たちで議論し、自分たちはどうしたらいいのかわかると答える常々出し、他人事にならないことが大事と思うのです。書かれた文字をしっかりと読む目、

自分が書いた文章に責任を持ち、聞いた言葉を正確に聞き届く耳を持つことは大切な初歩ともいうべき基礎なのです。あらゆる機会を謙虚に保つ...、そうした注文をいくつか重ね繰り返し、これから育っていくかも知れない人材がたくさんいる我が学園。そうした人材が横道に逸れないように、私は私のノートに聞書を詳細に載せていくのです。これは私の頭脳からの発信で、その記録は開示しない世界でもあります。拘束も制約も受けられない快感なエリアに若者が育っていく夢をまさに正月だからこそ自由に発想してみる訳です。

少し話題を変えて書きます。ずっと前、Kという職員が私の机に一冊の本を持って来て、これ読んだらいいよと上野千鶴子著「おひとりさまの老後」という本です。題名が気に入らず、しばらく開く気がしませんでした。内容が内容で、第一章「ようこそシングルライフへ」、第二章「どこでどう暮らすか」、第三章「だれとどうつきあうか」、第四章「お力ネはどうする」、第五章「どんなふうになるか」です。あんまり触れたくないらしい内容に目をそむけ、知ったことかないよなと、目障りでした。しかし、我慢して読んだらうなすけるものばかりで薄ら寒かったのです。いつか行く道なのに期待を寄せる気になれない。そうした価値観が嫌いで未練がましいことが大好きです。しかし、避けて通ることはできない試行錯誤を続け、そして平気になることへの挑戦をするのかしらと思つと体験したことのない不安にかられるのです。これを書いて来たら「痴呆」になったら私のどこに來て、老人のグループホームにいる元職員から手紙が来ました。待っています。パロディですね。でも嬉しいです。そんな事を言ってくれる人がいるなんて...今年もよろしくお願ひします。

新年のあいさつ

つるかわ学園施設長 植村義秀



あけましておめでとござい
ます。

平成二十五年を迎え、平成時代もはや四半世紀。昭和二十四年生まれの私などでも昭和は遠くなりけりと感じますが、ずっと先輩の大正、昭和一桁生まれの方にとっては尚更のことと思います。今年昭和一桁生まれの方は、上は八十七歳から下は七十九歳になられます。一方、二十一世紀になって生まれた子どもは十三歳、中学生です。悠久の河の流れのように時は流れ、時代や社会は変わり、人もまた変わっていく。無常ということであらためて実感します。

自分が齢を重ね、一歩ずつ高齢者に近づいていくにつれ、高齢者・お年寄りに対する見方は変わってきています。どの人にも、長い年月生きてきたことの威厳や風格というものを感ずるようになってきました。高齢者・お年寄りは、いつも困難な時代や社会を支えてきました。それが、どんな職業でどんな人生であって、困難を乗り越えてきた時間が各人に固有の威厳と風格をもたらしているのだらうと感じます。
話は少し変わります。

学園で生活されている人たちは、お話ができない方、コミュニケーションをとることが難しい方、身の回りのことが自分では十分にはできず、自分の身を守ることも危うい方たちです。しかし、この人たちは、みな自分の世界をもち、その人固有の時間を過ごされています。それぞれの人たちの従容とした表情やふるまい。何ごとにも動じない態度、屈託のない笑顔、あるがままがあるがまま受けいれる全き肯定感。何ができなくとも、言葉はなくても、そのままで確固たる人格を有した絶対的な存在感。私たちが歳をとる一方で、この人たちは全く歳をとらないように見え、齢を超越した威厳や気品を生まれながらにそなえているかのようです。邪心渦巻く私たち俗人はるかに超越した存在に思えます。

私たちの国は、「品」ということばで我々の祖先がいにあらわしてきた人間としての尊厳（松田道雄）を誰もが持ち続けられる国であってほしいと思います。しかし、今もって住み慣れた地から離され、避難生活を余儀なくされている人たちのことを思うと胸が痛み、強い憤りを感じ

ます。放射能汚染と原子力発電は私たちの生活を根底から揺るがし脅かし続けています。原子力への依存から脱する選択を一刻も早くすることは、私たちの

新しい年を迎えて

ブリコラージュのづたの空 通所事業部課長 板鼻丞次



新年明けましておめでとござい
ます。

ブリコラージュのづたの空は、就労移行支援と生活介護支援の多機能型施設として事業所を運営してきましたが、昨年七月一日付けで新たにつるかわ学園の生活介護（日中活動）の分場として単独で活動を開始して、半年が過ぎ新しい年を迎えました。

学園からの通所は、車二台による送迎によって通所してきます。ブリコラージュのづたの空の朝は、利用者の方の笑顔と元気な声での「お早うございませう」から始まります。

作業活動の内容は、利用者の方のニーズに合わせシュレッダー作業・銅線剥ぎ作業・機織作業・ビーズ作業・折紙作業・絵画作業・歩行活動・創作活動等、多種多様な作業活動を設定し、利用者の方が健康で楽しく活動していける場として支援スタッフ一同願っています。

社会が人の尊厳を大切にすることを必要不可欠な条件なのだと感じています。本年もよろしくお願いいたします。

昨年、作家で諏訪中央病院名誉院長の鎌田寛氏が、全国知的障害者福祉関係職員研究大会での記念講演で次のような話をされました。支援は、ここにきてストレスを溜めすぎている傾向がみられ、きちんと支援できなくなっている事が目立つ。支援者は元気でなくてはいけない。その為にもいろいろな場面で感動すればセロトニン（幸せホルモン）が出る。「今日はうれしいな」の一言によって、言われた利用者の方も、言った支援者もセロトニンが出る。一日何回か、小さな感動をする事が重要視されている。

利用者や支援者の繋がりの中で小さな感動を与える、感動を得る支援を繰り返しながら、よりよい支援、よりよい活動が来ていくのではないかと思います。

この「感動を与える・得る」を新しい年の目標としてやっていきたいと思えます。

思い、描く、一年に

東京都町田通勤寮 寮長 岩田雅利



新年あけましておめでとうございませう。と、この挨拶をするたびに思うのは、昨年が『おめでとございませう』と口にするのもはばかられる思いだった：ということだ。まさに未曾有の大災害を経験して、国全体がそういう雰囲気だったし、被災地の方々を想うと、とてもおめでたい気持ちになれるものではなかった。しかし、今なお、あの壁の薄い仮設住宅で、二回目の正月を迎えている方々のことを考えると、やはり気持ちは変わらない。

昨年は東社協の合同災害対策本部の活動で毎月のように気仙沼に行かせていただいた。フクシアから通勤寮へうつり、何かと落ち着かない状況ではあったが、周りのスタッフの理解と協力を得て、それだけ足を運ぶことができた。おかげで、被災地



の変化については少しだが肌で感じるようになっていきました。人を思いやる気持ちとは、イメージする力であると思う。当事者とまったく同じ気持ちになることはできない。しかしだからこそ欠かせないのが想像力だ。追われたり、浮かれたり、偏ったりして、想像力を欠いたとき、人は人を傷つける。これからの福祉の将来、利用者さんの気持ち、被災地の正月：より一層、健全で豊かな想像力をもって新たな一年を過ごしたい。

九月五日 東京都スポーツの集い

つるかわ学園 支援スタッフ 輿石大輔



九月五日の東京都スポーツの集いは、東京体育館アリーナが工事のため、例年とは違い駒沢オリンピック公園での開催となりました。会場に到着すると、すでに多くの施設が集まっていました。利用者さんは、盆パラピクス↓花文字↓ふうせん割り競走↓つなひき↓大玉ころがし↓【団体】電車でゴー↓小玉送りの競技に参加して、大いに楽しまれた様子でした。今年は、二百メートル走、リレーの種目が減り残念でしたが、各競技の間は、椅子に座って他の利用者さんの競技を観るなどして自由に過ごされていました。競技後、お昼のから揚げ弁当を美味しく食べて食べる利用者さんはとても表情が良く、私も嬉しく感じました。競技中のご家族の方からの応援は、利用者さんにとってとても大きな励みになったと思います。午後の競技も利用者さんには、疲れた様子はなく、元気いっぱい楽しんで充実した一日になったと思います。



第二十五回 つるかわ学園 福祉バザーを終えて

つるかわ学園 支援課長 芹澤政人



今回で、三十五回目の開催となりました。準備を進めていくにつれて、毎年気になるのは『天気』。今年もバザー当日は、午後からは雨の予報でしたが、降雨の時間帯や降水量等も職員で確認しながら、当日は実施させて頂きました。

福祉バザー当日は、十時の開場時間前から雨が降り出し、思ったよりも早い時間帯での降雨に、最後まで実施できるか不安を感じましたが、悪天候にも関わらず、開場前には二百五十名ほどの行列ができていました。午後からは雨が止む時間帯もあり、無事に最後まで実施する事がで



き、職員一同、ホツとしています。

昨年同様、今年もチラシの一斉配布を九月の中旬に行い、その翌日から寄贈物品の受領を実施しました。今年は、二百八十件以上の品物を受け取らせて頂きましたが、これまで寄贈していただいているリピーターの方には、七月に協力依頼のハガキを郵送し、『寄贈の受取日まで品物を取っておきます』等の温かいお手紙も頂きました。

昨年同様に、一番の指針に基づいた目標としましては、『利用者さんの生活の質の向上であり、そのことが、利用者さん一人ひとりに実感してもらえような行事としていく。』としました。今年は、午前中から模擬店も利用していただき、食事や買い物、ステージの観覧など、楽しんでもらえるように計画をしました。利用者の方たちが、食事をしながら、表情明るく職員バンドなどの演奏を見ている姿を見て、とても嬉しく感じております。

今後も、利用者さんに楽しんで頂き、また、地域との連携をより深く

構築していけるような『行事づくり』をしていきたいと思えます。

準備を進めていく中で、寄贈物品の受領、テントや机などの借用などを通じて、地域住民、関係機関の協力を得ながら地域福祉ネットワークの構築を図ることができたと感じています。

最後に、ご家族や地域の方、ステージ等も含めたボランティアの方、多くの方の誠意とご協力によって盛況に実施する事が出来ました。本当にありがとうございました。



つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!

HP: tsurukawa-gakuen.com

つるかわ学園を 支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇千円ですが、ひとり何回か入っていただくことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九

加入者

社会福祉法人 つるかわ学園